

中学校給食の実施について

これまで西部学校給食センターからの配送により、モデル3校（大蔵・高丘・魚住中学校）に対し、給食を実施してきました。

一方、モデル校以外の10校では、モデル校の給食の状況を視察したり、給食の配膳について教職員、生徒による模擬訓練を実施したりするとともに、食物アレルギー対応の面談を行うなど給食開始に向けた準備を進め、東部学校給食センターでは、本年2月から円滑な稼働に向け、調理・配送等の訓練を重ねてきました。

4月13日には東西の給食センターからの給食により、モデル校以外の10校で配膳や喫食、後片付けなどの一連の流れについて、実食訓練を通じて確認を行い、こうした取組みを経て、4月18日から全13中学校で給食を実施しています。

記

1 中学校給食導入の目的

成長期にある中学生に栄養バランスのとれた安全・安心なあたたかい給食を届けるとともに、食事に関する正しい知識、望ましい食習慣を養うなど食育を推進し、「食」を通じて子どもたちの成長と学びを支えます。

2 明石市の中学校給食のこだわり

(1) あたたかい給食

- ① 東西2か所の給食センターから各学校に作りたてのあたたかい給食を配送します。
- ② 2重構造で保温性の高い食缶で、あたたかいものをあたたかいうちに子どもたちのもとに届けます。

(2) 地産地消・食育

- ① 明石産や兵庫県産の食材を使用するよう心がけるとともに、タコ料理の提供など、明石ならではの食文化の理解を深めます。
- ② 食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるとともに、食べ物の大切さを理解できるよう、給食を生きた教材として献立のお知らせにあわせた情報提供などにより、食育を推進します。

(3) 安全・安心

- ① 「県内初」の市費栄養士（学校給食員）を配置し、子どもたちに安全・安心な給食を提供します。
- ② 食材の検収から配膳まで徹底した衛生管理を行います。

3 4月からの実施の状況

(1) 給食センターからの給食提供の状況

区分	東部学校給食センター	西部学校給食センター
提供中学校	10校 (錦城・朝霧・ 大蔵 ・衣川・野々池・望海・大久保・大久保北・ 高丘 ・江井島)	3校 (魚住 ・魚住東・二見)
献立	2献立 (A献立、B献立)	1献立 (A献立)
提供食数	約6,000食	約2,200食

※ 太字はモデル校

(2) 生徒・教職員の声

① 生徒

- ・あたたかくて美味しい。弁当と比べてあたたかいのが嬉しい。
- ・食べる時間がもう少しあれば嬉しい。
- ・準備、片付は小学校で給食をやっていたので違和感はない。
- ・毎日違うものを食べられるのが良い。弁当を持って来なくて良いので、荷物が少なくて済む。

② 教職員

- ・階段の縦の移動が怖い。
 - ・時間的に慌ただしい。慣れるまで少し時間がかかりそう。
 - ・メニューによっては量が少なく感じる。
 - ・4校時又は5校時が体育の時は、着替えに時間がかかるため、時間的配慮が必要。
- ※給食の量に関しては、「ちょうど良い」という意見が大半を占めていたが、男子生徒の一部からは少ないとの意見もあった。

(3) 課題

- ・配食はスムーズであったが、食缶を取りに行くのに時間がかかっていた。
- ・残食や食育の面からの指導については、今後の課題。
- ・給食の運営方法など事前に学年団等で共通理解する必要がある。

4 今後の予定

10校の食物アレルギー対応について

- ・給食開始日から5月18日までは、給食の提供は行わず、弁当を持参します。
- ・5月21日から2学期の終わりまでは、アレルギーを含まないおかずは提供し、アレルギーを含むおかずは提供せず、代替のおかずを持参します。
- ・3学期からは、通常食からアレルギーを除去した除去食を提供します。

5 その他

兵庫県下自治体の中学校給食導入状況等については、別添「参考資料1」のとおり